

高齢者のための

包括的環境要因調査票

Comprehensive Environmental Questionnaire (CEQ)
for the Elderly

実施の手引き

【第 1 版準拠】

2011 年 4 月 1 日 第 1 版第 2 刷発行

発行者／吉備国際大学保健医療福祉学部作業療法学科 藪脇健司

〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町 8

TEL: 0866-22-9454(代表) FAX: 0866-22-4044

目 次

I	は じ め に	p.1
II	CEQ の 構 成 概 念	p.2
III	CEQ の 調 査 内 容	p.5
IV	CEQ の 実 施 手 順	p.7
V	CEQ の 採 点 方 法	p.8
VI	支 援 計 画 の 作 成	p.9
VII	CEQ に関する Q&A	p.10
	文 献	p.11
	CEQ 開 発 協 力 施 設	p.12

Ⅰ はじめに

国際生活機能分類(ICF)の概念によると、個人の健康状態と生活機能、背景因子(環境因子と個人因子)の間にはダイナミックな相互関係が存在するとされている。特に環境因子は、生活機能と障害の全ての構成要素に影響を及ぼす重要なものとして位置づけられる¹⁾。また、作業療法の実践において、Kielhofner は「課題の機会を提供すること」「環境を改善すること」「福祉機器を提供すること」「カウンセリングと問題解決」を用いて作業への参加を促すことで、クライアントの健康状態に影響を与えることができるとしている。なかでも、環境の改善においては、物理的環境に加えて社会的環境の改善を促すことが、作業療法介入のますます重要な側面となると述べている²⁾。

しかし、作業療法士をはじめとした保健医療福祉従事者が、地域で生活する高齢者の環境的側面に対して包括的にアプローチするために使用可能な評価手法は、国内外を通してほとんど存在しないのが現状である³⁾。そこで籾脇らは、平成 17・18 年度文部科学省科学研究費補助金の交付を受け、ヘルスケアサービスを必要とする地域在住高齢者を対象とした包括的環境要因調査票(CEQ)を開発した⁴⁾。

CEQ の開発手順として、まず、高齢者の環境に関する原著論文を系統的にレビューし、高齢者の QOL に関連する環境要因を「社会的」「物理的」「制度的」「情動的」「宗教的」の 5 領域より 16 項目抽出した⁵⁾。次に、通所リハビリテーションの利用者に対して、質的手法である Nominal Group Technique を実施し、環境要因 15 項目の表面的・内容的妥当性を確認した⁶⁾。これらの研究結果より、在宅高齢者の QOL に影響する環境要因を包括的に評価する CEQ 暫定版を作成し、全国の在宅要支援・介護高齢者 178 名を対象に、調査票の信頼性と構成概念妥当性、基準関連妥当性を確認して、3 因子 14 項目の CEQ 第 1 版を開発した⁷⁾。

CEQ を用いることで、クライアントが満足した生活を送るために介入が必要な環境要因を理解することができる。評価結果を活用したヘルスケアサービスを提供するために、平成 20・21 年度文部科学省科学研究費補助金の交付を受け、環境的介入記録シートを作成した⁸⁾。このシートは、介護保険で利用される居宅サービス計画書を参考に、クライアントに対する介入の内容が明確になるように構成されている。

本手引きは、要支援・介護状態にある在宅高齢者等に対して、CEQ の適切な実施を通してリーディングの明確な支援計画を作成し、クライアント中心のサービスを提供するための方法を説明するものである。

II CEQの構成概念

本調査票は「QOLに影響する環境」を上位因子と捉えた3因子14項目の二次因子モデルとして定義され、以下の環境要因によって構成される(図1)。

〔因子Ⅰ〕 安心生活環境

- ① 落ち着いた気分でいられる環境
- ② 必要な援助を受けられる環境
- ③ 快適で使いやすい住居環境
- ④ 安全な住居環境
- ⑤ 経済的に安定している環境
- ⑥ 医療・福祉サービスを適切に利用できる環境

〔因子Ⅱ〕 相互交流環境

- ⑦ 人の役に立てる環境
- ⑧ 友人・知人と関係が良い環境
- ⑨ 集まって人と交流しやすい環境
- ⑩ 外出しやすい環境
- ⑪ 必要な情報を得られる環境
- ⑫ 外の人と自由に通信できる環境

〔因子Ⅲ〕 家族環境

- ⑬ 家族関係が良好な環境
- ⑭ 一緒に生活する人がいる環境

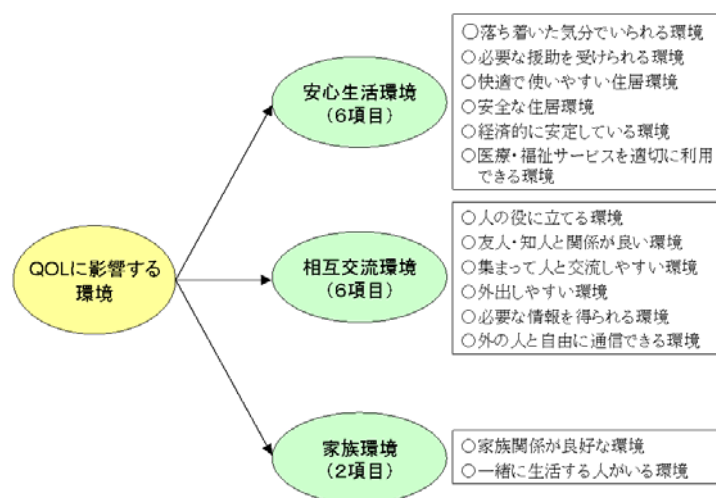


図1 包括的環境要因調査票の構成概念と質問項目

CEQ における 14 項目の環境要因が意図する意味を以下に説明する。

安心生活環境	1. 落ち着いた気分でいられる環境 この環境要因は、周囲に不快にさせる人や負担をかける人がいない環境を表している。
	2. 必要な援助を受けられる環境 この環境要因は、必要に応じて手段的なサポートや情緒的なサポートを得られる環境を表している。
	3. 快適で使いやすい住居環境 この環境要因は、自宅のトイレ、浴室、居室が使いやすく、食事をする場所が近く、離床を目的に廊下や玄関が改造してあり、室内が清潔に保たれている環境を表している。
	4. 安全な住居環境 この環境要因は、安全性に気が配られている環境を表している。
	5. 経済的に安定している環境 この環境要因は、経済状態に満足し、経済的負担を感じない環境を表している。
	6. 医療・福祉サービスを適切に利用できる環境 この環境要因は、医療・福祉スタッフとつながりがあり、デイサービス・デイケア等で他者と交流できる環境を表している。
相互交流環境	7. 人の役に立てる環境 この環境要因は、周囲に面倒をみてあげる人が存在し、自らが有能感を感じられる環境を表している。
	8. 友人・知人と関係が良い環境 この環境要因は、親友が多く、友人・知人と交流がある環境を表している。
	9. 集まって人と交流しやすい環境 この環境要因は、様々な活動に参加しやすく、周囲で色々な催し物がある環境を表している。
	10. 外出しやすい環境 この環境要因は、交通が不便で外出がおっくうにならず、外出頻度が高い環境を表している。

相互 交流 環境 (続き)	11. 必要な情報を得られる環境 この環境要因は、マスメディアや家族から情報が得られ、健康関連の情報も得られる環境を表している。
	12. 外の人と自由に通信できる環境 この環境要因は、外部の人や機関に対し、通信機器を用いて自由に連絡できる環境を表している。
家族 環境	13. 家族関係が良好な環境 この環境要因は、同居、別居に関わらず家族や親族と交流があり、子供とも関係が良い環境を表している。
	14. 一緒に生活する人がいる環境 この環境要因は、結婚し配偶者がいるか、家族などの同居者がいる環境を表している。

以上の説明は、わが国の高齢者の環境に関する原著論文を系統的レビューし、QOLに関連する環境要因を KJ 法によって分析した結果⁵⁾に基づいている。

Ⅲ CEQの調査内容

CEQ は、「質問 1」と「質問 2」、および自由記載欄によって構成されている。

「質問 1」(表 1)は、3 因子 14 項目の環境要因を現時点で対象者自身がどのくらいあると感じているかを調査する内容となっている。これらの質問に対して、対象者は「全くない」「少しある」「ある」「十分ある」の 4 件法で回答する必要がある。

表 1 質問 1 の内容

因子	質 問	回 答			
		1	2	3	4
【Ⅰ】 安心生活環境	① 落ち着いた気分でいられる環境がありますか？	全くない	少しある	ある	十分ある
	② 必要な援助を受けられる環境がありますか？	全くない	少しある	ある	十分ある
	③ 快適で使いやすい住居環境がありますか？	全くない	少しある	ある	十分ある
	④ 安全な住居環境がありますか？	全くない	少しある	ある	十分ある
	⑤ 経済的に安定している環境にありますか？	全くない	少しある	ある	十分ある
	⑥ 医療・福祉サービスを適切に利用できる環境がありますか？	全くない	少しある	ある	十分ある
【Ⅱ】 相互交流環境	⑦ 人の役に立てる環境がありますか？	全くない	少しある	ある	十分ある
	⑧ 友人・知人と関係が良い環境にありますか？	全くない	少しある	ある	十分ある
	⑨ 集まって人と交流しやすい環境がありますか？	全くない	少しある	ある	十分ある
	⑩ 外出しやすい環境がありますか？	全くない	少しある	ある	十分ある
	⑪ 必要な情報を得られる環境がありますか？	全くない	少しある	ある	十分ある
	⑫ 外の人と自由に通信できる環境がありますか？	全くない	少しある	ある	十分ある
【Ⅲ】 家族環境	⑬ 家族関係が良好な環境にありますか？	全くない	少しある	ある	十分ある
	⑭ 一緒に生活する人がいる環境にありますか？	全くない	少しある	ある	十分ある

「質問 2」(表 2)は、3 因子 14 項目の環境要因のなかから、対象者自身が満足した生活を送るために、今よりも変えたい環境要因は何かを調査する内容となっている。ここで対象者は該当する環境要因を最大 3 つ選択し、その環境要因の(質問)番号と選んだ理由を優先度の高い順に回答する必要がある。

表 2 質問 2 の内容

質問 2	
①～⑭の質問のなかで、あなたが満足した生活を送るために 今よりも変えたい環境を最大 3 つ選んでください。	
選んだ後、その環境(質問)の番号と選んだ理由を優先度の高い順に書き込んでください。	
※ 3 つより少ない場合は空欄に「なし」と記入してください。	
1 番目に変えたい環境	
質問の番号	選んだ理由
2 番目に変えたい環境	
質問の番号	選んだ理由
3 番目に変えたい環境	
質問の番号	選んだ理由

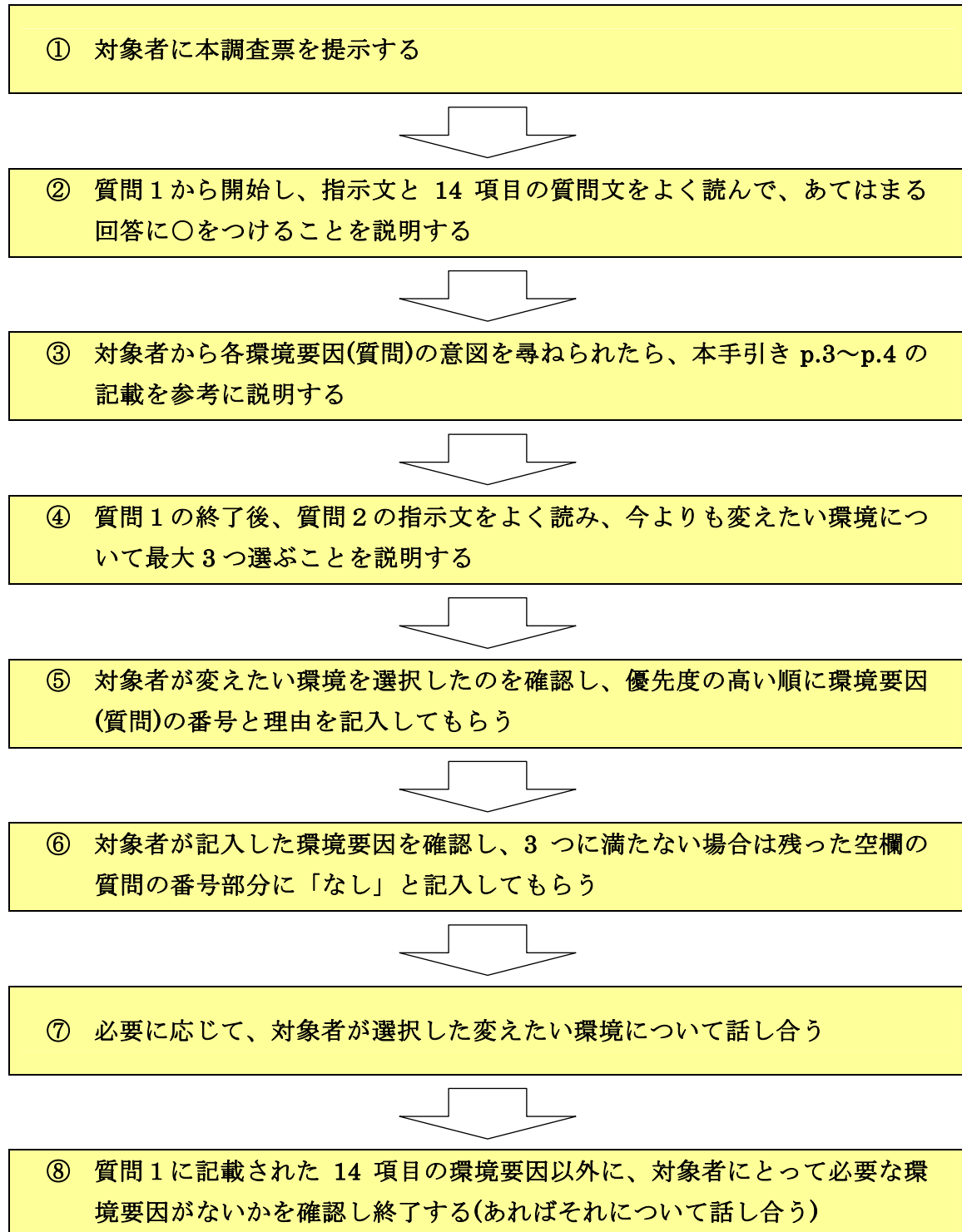
その他、質問 1 に記載された 3 因子 14 項目の環境要因以外に、対象者にとって必要な環境要因があれば、質問 1、あるいは質問 2 の終了時に調査することが可能である(表 3)。

表 3 自由記載欄の内容

○他にあなたにとって必要な環境要因がありましたらお書き下さい。

IV CEQの実施手順

CEQ は、基本的に自己記入式にて実施する。やむを得ず、面接形式で実施する場合は、回答を誘導しないように注意する。以下に本調査票を実施する手順を示す。



V CEQの採点方法

CEQでは、因子別スコア、合計スコアを算出し、対象者の環境要因に対する認識の経時的変化を確認することが可能である(表4)。配点は、「全くない」1点、「少しある」2点、「ある」3点、「十分ある」4点とし、単純加算してスコアを算出する。ただし、スコアはZ得点換算などの標準化手続きを実施していないため、原則として対象者間の比較は行わないものとする。

また、対象者の変えたい環境の合計スコアも算出可能である(表4)。ここでは、初回実施時に選択された変えたい環境要因に対する認識の経時的変化を確認する。CEQを用いて、クライアント中心のサービスを提供する際は、このスコアを向上させることが大きな目標となる。配点は対象者によって異なり、変えたい環境要因が1項目の場合で4点、2項目の場合で8点、3項目の場合で12点となる。

表4 採点欄の内容

実施日	因子Ⅰ (配点24)	因子Ⅱ (配点24)	因子Ⅲ (配点8)	合 計	変えたい 環境合計
・ ・	点	点	点	点	点
・ ・	点	点	点	点	点
・ ・	点	点	点	点	点

VI 支援計画の作成

CEQを実施し、対象者の環境要因に対する認識を調査した後に、本人、家族、保健医療福祉従事者などの関係者間で結果について話し合い、介入を必要とする環境要因を決定する。それらの環境要因に関する支援計画は、CEQに準拠した環境的介入記録シート(図2)を用いて作成する。

本シートは、①改善すべき環境(A. 介入環境要因／B. 具体的状況／C. 優先度)、②介入目標(短期目標／期間)、③介入内容(対象・内容／場面／担当者／頻度・期間)について記載するもので、対象者に対する介入のリーゼニングが明確になるように構成されている。

介入記録1		(20 年 月 日記入)					
①改善すべき環境	②介入目標		③介入内容				備考
	短期目標	期間	対象・内容	場面	担当者	頻度・期間	
A. 介入環境要因 【安心・相互・家族】							
B. 具体的状況							
C. 優先度							

介入記録2		(20 年 月 日記入)					
①改善すべき環境	②介入目標		③介入内容				備考
	短期目標	期間	対象・内容	場面	担当者	頻度・期間	
A. 介入環境要因 【安心・相互・家族】							
B. 具体的状況							
C. 優先度							

介入記録3		(20 年 月 日記入)					
①改善すべき環境	②介入目標		③介入内容				備考
	短期目標	期間	対象・内容	場面	担当者	頻度・期間	
A. 介入環境要因 【安心・相互・家族】							
B. 具体的状況							
C. 優先度							

図2 環境的介入記録シート(包括的環境要因調査票準拠)

VII CEQに関するQ&A

Q. 「必要な援助を受けられる環境」とは何か？今はお金に困っていない！

⇒A. この場合の「援助」とは金銭的援助のみではなく、少しでも困った時に身近な人から「手助け」や「はげまし」をしてもらうような援助も含まれると考えて下さい。

Q. 「必要な情報を得られる環境」とは何か？インターネットは使えない！

⇒A. この場合の「情報」とは自分が知りたいと思う全ての情報を指し、インターネットに限らず、家族・知人からの口コミやテレビ・新聞などから得られる情報も含まれると考えて下さい。

Q. 「一緒に生活する人がいる環境」とは何か？家族はいない！

⇒A. この場合の「一緒に生活する」とは家族・親族と同居している場合に限らず、身内以外との共同生活や定期的に外泊する(または泊まりに来る)場合も含まれると考えて下さい。

Q. 「変えたい環境」はなく現状に満足している！

⇒A. 無理に選択する必要はありません。

Q. 「変えたい環境を選んだ理由」は全て正確に書くのか？

⇒A. うまく書けない場合は無理に記入する必要はありません。変えたい上位の環境だけでも、簡単に記入するか口頭で伝えて下さい。

文 献

- 1) 世界保健機関(WHO): ICF 国際生活機能分類－国際障害分類改定版. 中央法規, 東京, pp.1-23, 2002.
- 2) Kielhofner G : The contemporary paradigm: A return to occupation as the professional core. Conceptual Foundations of Occupational Therapy, 3rd ed, F.A.Davis, Philadelphia, pp.64-71, 2004.
- 3) Yabuwaki K, Yamada T, Shigeta M : Extracting environmental factors from literatures related to QOL in the Japanese elderly. 14th Congress of the World Federation of Occupational Therapists, 2006.
- 4) 藪脇健司: 高齢者を対象とした包括的環境調査票の開発－主観的 QOL に関与する環境要因の抽出. 平成 17・18 年度文部科学省科学研究費補助金, 若手研究(B), 課題番号 17700452.
- 5) 藪脇健司, 繁田雅弘, 山田孝: わが国における高齢者の QOL に関連する環境要因の文献学的検討－KJ 法を利用した環境要因の分類. 総合リハ 35(9) : 911-918, 2007.
- 6) 藪脇健司, 山田孝, 植川陽子, 久保田哲夫, 小出侑季: Nominal Group Technique を用いた在宅高齢者の生活満足感に影響する環境要因の検討－高齢者を対象とした包括的環境要因調査票の開発に関する予備的研究. 作業療法 26(6) : 567-582, 2007.
- 7) Yabuwaki K, Yamada T, Shigeta M : Reliability and validity of a Comprehensive Environmental Questionnaire for community-living elderly with healthcare needs. PSYCHOGERIATRICS 8(2) : 66-72, 2008.
- 8) 藪脇健司: 介入研究による在宅要支援・介護高齢者の QOL を高める包括的環境支援プログラム開発. 平成 20・21 年度文部科学省科学研究費補助金, 若手研究(B), 課題番号 20700434.

CEQ開発協力施設

[北海道地方]

介護老人保健施設アートヒルズ（札幌市）
介護老人保健施設リラコート愛全（札幌市）
デイサービスたいよう（札幌市）
牧田病院デイケアセンター（札幌市）

[東北地方]

介護老人保健施設あいぜん苑（秋田市）
介護老人保健施設桜の園（秋田市）
介護老人保健施設翠香苑（秋田県井川町）
介護老人保健施設なごみのさと（秋田県大仙市）
デイサービスセンターあいらんど（秋田市）

[関東地方]

介護老人保健施設回生の里（千葉県柏市）
介護老人保健施設ビバ・フローラ（東京都世田谷区）
渋谷区総合ケアコミュニティせせらぎ（東京都渋谷区）

[近畿地方]

医療法人社団神野医院（京都府宇治市）
介護老人保健施設ヴォーリズ老健センター（滋賀県近江八幡市）
京都大原記念病院訪問リハビリテーション事業所（京都市）
訪問看護ステーションなかさと（滋賀県野洲市）

[中国地方]

あいの里クリニック（岡山市）
医療法人青木内科小児科医院（岡山市）
医療法人恵誠会大西病院（岡山県玉野市）
介護老人保健施設あいの里リハビリ苑（岡山市）
介護老人保健施設すこやか苑（岡山市）
総合病院玉野市立玉野市民病院（岡山県玉野市）
特別養護老人ホームフェニックス（岡山県玉野市）

研究協力：2007年1月～2009年11月、計23施設